※　3 月 30 日定例記者会見配布用　概要版（案）

がいようばん
概要版

第２期　生物多様性のだ戦略

せいぶつたようせい　せんりゃく

2023（令和 5）年度～2032（令和 14）年度

様々な生きものがいることによって、豊かな自然が健全に守られています。

生物多様性とは「多くの生きものたちがお互いに関わり合い、様々な環境に合わせて生存している」ことをいいます。

人間も生きものの1つです。生命の一つ一つに個性があり、全ての生命は直接的に、あるいは間接的に、つながり支え合って生きています。

2023（令和 5）年 3 月

野　田　市

私たちの生活は生物多様性に支えられているね

私たちの生活には、自然の恵みから作られている水、食料、燃料、衣服などが欠かせません。また、森林や河川など豊かな自然を守ることは、自然災害の軽減や温暖化の防止など、私たちが安心して暮らせる環境の確保につながります。

このような豊かな自然の恵みは生物多様性（多様な生きものの関わり合い）により作られています。

そのため、**「生物多様性を守ることは、 私たちの生活を守ること」**にもつながっています。

そして生物多様性を守るためには、多様な生きものの生存を支える基盤である水や土を保全するという視点が欠かせません。

【3つのレベルの多様性】

① 生態系の多様性

森林、海洋、草はら、湿地など、いろいろなタイプの自然、つまり生きものが暮らす場所があります。

② 種の多様性

動物、植物、細菌など、いろいろな種類の生きものが存在し、お互い支え合いながら暮らしています。

③ 遺伝子の多様性

同じ種類の生きものでも、異なる遺伝子を持ち個性があります。形や模様などに違いがある種もいます。

生物多様性にどんな危機が迫っているの？

環境省では、生物多様性を低下させた要因を「4 つの危機」として整理しています。

【生物多様性を低下させる 4 つの危機 】

第一の危機：人間活動や開発による危機

第二の危機：人間による働きかけの縮小による危機

第三の危機：人間により持ち込まれたものによる危機

第四の危機：地球環境の変化による危機

野田市の生物多様性の現状を知ろう

○コウノトリをシンボルとした取組

野田市では、豊かな自然環境が残っているという特長をいかし、生物多様性の保全に取り組み、市内の至るところでホタルやドジョウなど多くの生きものが戻ってきました。市では、これらの経験をいかし、更なる生きものがたくさんすめるような環境づくりを目指しました。

そこで、生物多様性の保全を継続し、広域的に連携しながら拡大して取り組むために、希少性が高くかつ親近感が持て効果が分かりやすいシンボルが必要と考え、明治時代の銃による乱獲や農薬の使用など人間の活動が主な原因となり、一度は絶滅した国の特別天然記念物であるコウノトリを生物多様性のシンボルとして、飼育・放鳥・野生復帰に取り組んできました。

コウノトリの飼育、放鳥、それに伴うイベントの様子

【コウノトリの取組による成果】

2012（平成 24）年 12 月に多摩動物公園からコウノトリ 2 羽を譲り受け、飼育を開始しました。また、2015（平成 27）年に関東初の放鳥を実施しました。

そうした中で、市内各所に複数のコウノトリの飛来滞在が確認でき、餌となる多くの生きものが増えていることが証明されました。長期で滞在しているコウノトリもいます。

今後は、今まで取り組んできた「自然と共生する地域づくり事業」を継続しながら、人材育成や観光、商品開発などにも取組を広げ、コウノトリを活用して魅力的な地域づくりの実現につながることを目指しています。

～なぜ、「コウノトリ」がシンボルになるのか？～

①コウノトリは、「田んぼ」の食物連鎖の頂点に立つ肉食の鳥であり、体重約 4 kg～6 kgの体を支えるために 1 日約 500 g ～ 1 kgという多くの餌が必要

➡コウノトリが生息可能な自然環境は、生物多様様性の豊かな良好で健全な生態系の存在を示す証(あか)しとなる

水辺環境の生態ピラミッド
（作図：（公財）日本生態系協会）

②コウノトリは、採餌場所として「田んぼ」や「河川・湿地」などを利用

➡「田んぼ」は、人間の食糧生産の場であり、コウノトリが安全・安心な餌を食べられる環境は、人にとっても、安全・安心な農作物が作られている証(あか)しとなる

③コウノトリは、日常的に広域的な移動を行う大型鳥類であるとともに、国の特別天然記念物であるため、その移動も注目を集める

➡江川地区から利根運河流域へ、そして野田市全域、更に関東地域へと広げていく際に、各地域間をつなぐ目に見える指標種となる

④コウノトリは、白くて美しい姿や優雅な飛翔(ひしょう)、大型で目立つことに加えて人の目にとまる場所で子育てをし、古くから幸せを運ぶ“瑞鳥（ずいちょう）”として、多くの人から親しまれ愛されてきた鳥

➡コウノトリをきっかけに、自然環境や農業、地域づくりに関心をもつ市民が増えるとともに、野田市の取組への認知度が高まることにつながる

○自然環境調査結果の概要

野田市の生物多様性の現状における特性を把握するため、「自然環境調査員会」を設置し、市内の主な自然拠点 13 地点（次ページ図参照）において、動植物の調査を実施しました。

また、「江川地区」については、その歴史的な経緯の中での自然との関わりを対象とした調査も実施しました。

調査方法等の実施概要は「資料編」に掲載、詳細結果をとりまとめた調査結果報告書は野田市ホームページで公表しています。

QR コード
自然環境調査報告書の
ダウンロードページ

■動植物調査結果の概要

調査は、令和 2（2020）年 9 月～令和 3（2021）年 10 月にかけて、野田市の自然環境に詳しい市民活動団体の協力を得て実施し、1,517 種という多くの動植物が、私たちの身近に暮らしていることが確認されました。

分類群ごと確認種数

確認種数＼分類群		植物	鳥類	爬(は)虫類	両生類	魚類	昆虫類	計
確認種数		792	100	9	7	25	584	1517
希少種数	環境省レッドリスト	21	10	0	1	8	11	51
	千葉県レッドデータブック	49	46	7	4	7	46	159
外来種・栽培種		207	1	1	2	6	16	233

調査地点ごとの確認種数

調査地点＼調査地点		植物	鳥類	爬(は)虫類	両生類	魚類	昆虫類
1	中戸谷津	242	46	4	5	11	105
2	関宿落堀ビオトープ	240	45	3	4	11	150
3	五駄沼付近	203	57	5	3	4	178
4	尾崎金島地区	240	37	3	4	0	199
5	小船橋水辺公園付近	205	42	3	3	2	126
6	はきだし沼	131	39	4	3	7	140
7	座生調整池	258	55	0	4	7	140
8	柳沢西山市民の森 柳沢北耕地市民の森	238 216	25 41	2	2	1	151
9	木野崎城下	282	51	4	4	16	146
10	三ツ堀里山自然園	322	42	5	4	4	265
11	二ツ塚	289	35	1	2	0	224
12	南部耕地	-	50	-	-	-	-
13	江川地区	375	59	6	2	15	105

調査地点

※流域界：「流域」は、地形によって降った雨が河川などに集まる範囲のことで、「流域界」は、流域と流域の境界線です。野田市内に降った雨は「利根川」「江戸川」「利根運河」に流れ、やがては海に流れていきます。

自然環境調査で確認された生きものたち（一部）

ハンノキ	ノスリ	カワセミ	アケビ
タゲリ	ムラサキシジミ	ニホンカナヘビ	オオアオイトトンボ
オオカマキリ	モツゴ	トウキョウダルマガエル	キンラン
キジ	トホシテントウ	ニホンアカガエル	オオスズメバチ
タヌキ（ため糞）	ツチイナゴ	アカミミガメ（外来種）	カダヤシ（外来種）

写真提供：柳沢朝江氏、土屋氏、紺野氏、小泉氏、徳永氏、柳沢勉氏、（公財）日本生態系協会

■自然に係る歴史環境調査結果の概要

私たちの目の前にある自然は、長い歴史において、人の営みと深い関わりの中で育まれてきたものであることを改めて知ることができました。

田舟浮かぶ江川排水路（大正８年）
（野田市江川土地改良区所蔵）

現在の江川地区

■野田市の自然環境の現状と課題

自然環境調査から、次のような野田市の自然環境の現状と課題が確認されました。

乱開発の防止と身近な自然の保全

人の管理・活用で維持される雑木林や水田の保全

ごみのポイ捨てや不法投棄による環境の悪化

在来種の減少と外来種の増加

自然環境調査データの蓄積と活用

ルール・マナーを守った持続可能な自然の利活用

自然に対する市民意識の向上・醸成

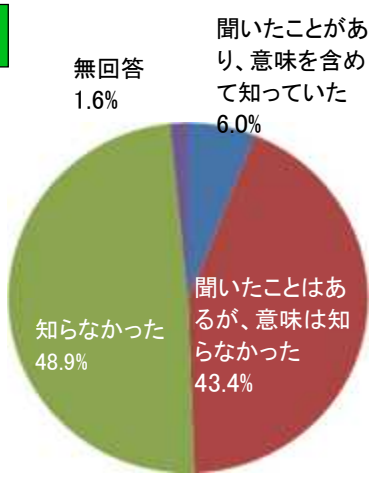
○社会環境調査結果の概要

生物多様性に係る市民意識の把握を行うため、市内全小学校から協力を頂き、令和2年11月に小学校５年生の児童及びその保護者等を対象としたアンケートを実施しました。アンケートの回収率は、児童約97%（1,292名）、保護者等約89%（1,193名）でした。

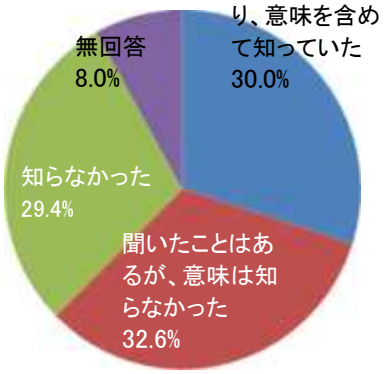
① 生物多様性の認知度について

問：「生物多様性（せいぶつたようせい）」という言葉を知っていましたか？

子ども



保護者等



子どもの中で「生物多様性」という言葉の認知度が高くないことが分かりました。

② 身近な生きものについて（複数回答）

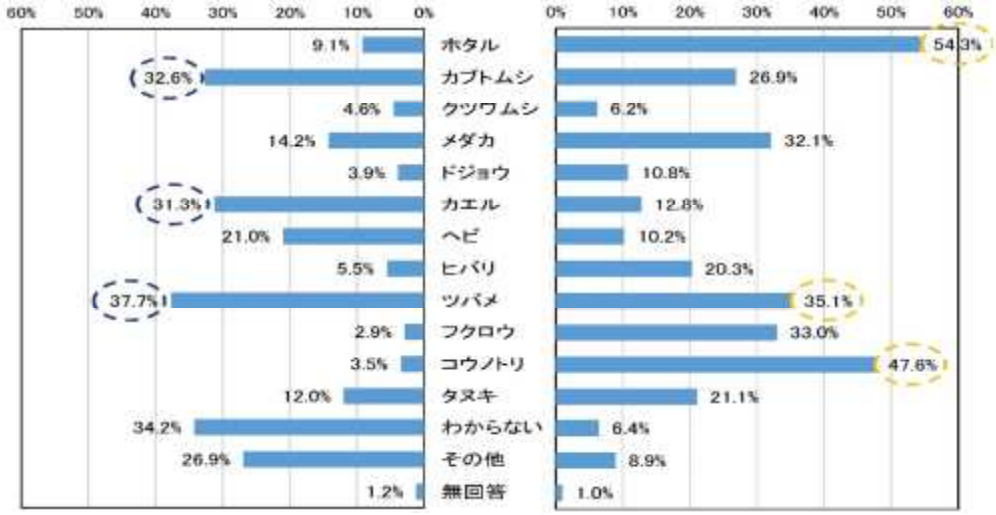
子ども

いま

家の近くや通学路、あそび場には、どんな生きものがいますか？

将来

10 年後、どんな生きものが野田市内でふえるといいな、と思いますか？



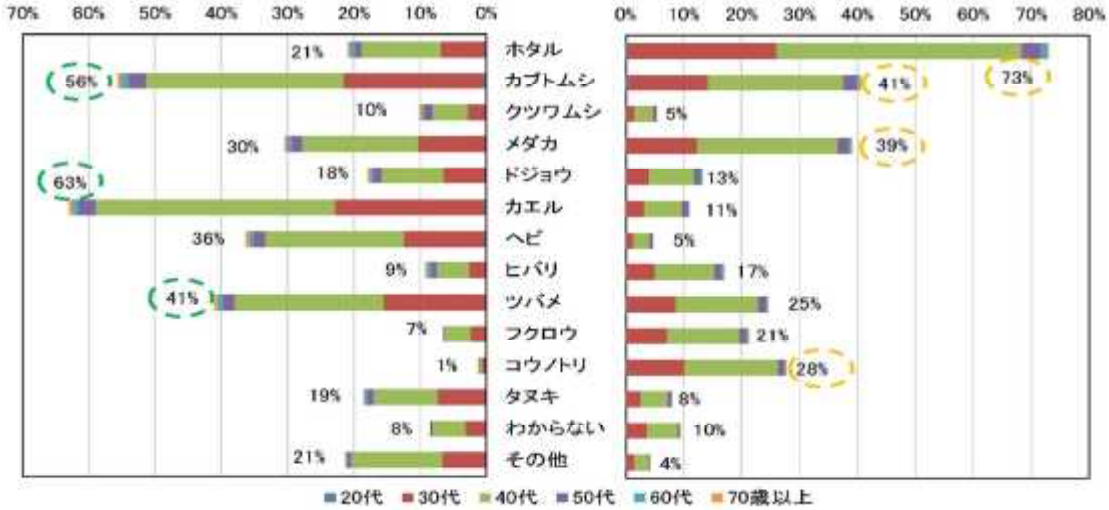
保護者等

子どもの頃

子どものころ、家の近くや通学路、あそび場には、どんな生きものがいましたか？

将来

子どもや孫の世代になったとき、どんな生きものが野田市内でふえるといいな、と思いますか？



将来 ふえてほしい生きもの

コウノトリ

ホタル

ツバメ

メダカ

この戦略で何を目指しているの？

野田市では2050（令和32）年までに実現を目指す「将来像」として、**野田市には水辺の生態系の頂点に立つコウノトリが生息する（すめる）環境があり、市の自然を象徴する「みどり」や多くの「生きもの」が関わりあうことが、生物多様性の保全のみでなく、私たちの暮らしの基盤をつくり、私たちが安全・安心に暮らせることにつながるという思い**をこめて、以下のとおり掲げています。

野田市が目指す将来像

私たちの暮らしを支えるみどりと生きものがつながるまち

～コウノトリもすめる自然なのだ～

上記の将来像の実現を目指すため、第２期戦略においては、計画期間・目標・指標を以下のとおり設定します。

計画期間　2023（令和 5）年度から 2032（令和 14）年度までの 10 年間

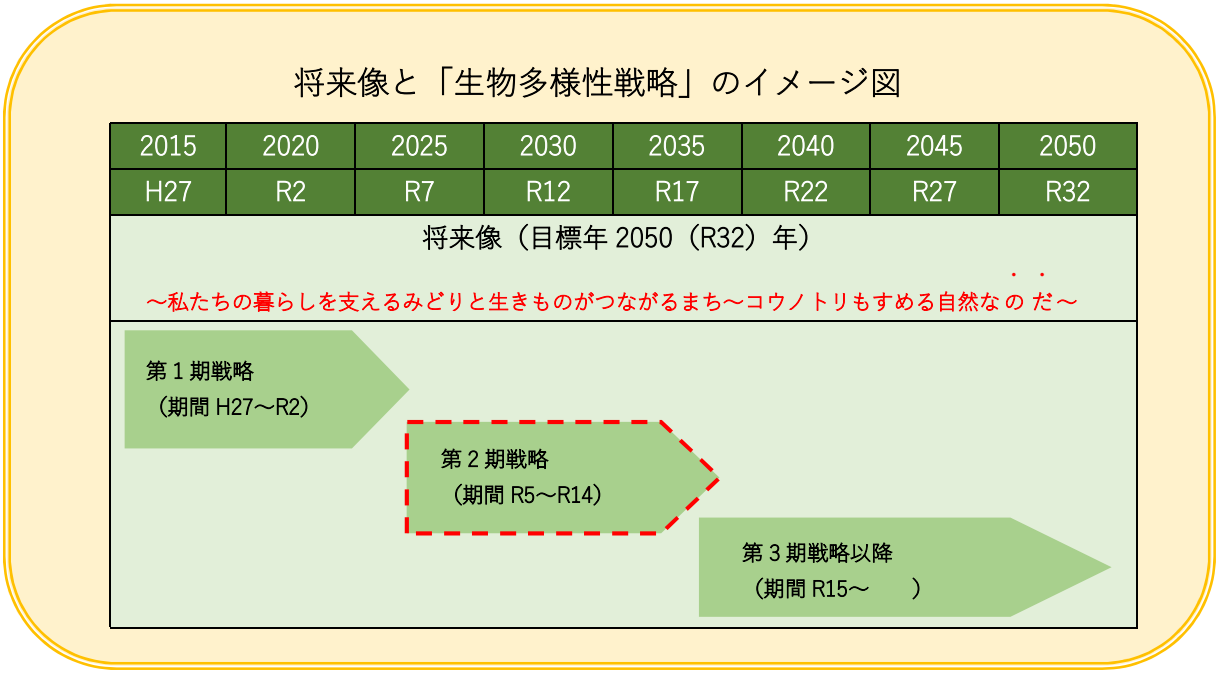
目　　標　一人一人が生物多様性を感じ、行動する

指　　標　生物多様性の認知度

子ども（小学校５年生）の認知度 15%（2020 年度：６%*）

大人（小学校５年生の保護者）の認知度 40%（2020 年度：30%*）

（*2020 年度実施のアンケートで「意味も知っている」と回答した割合）



【4 つの基本方針とそれに基づく施策】

目標を達成するため、取組を進めるための**<u>4 つの基本方針</u>**、及び、2032年までに実施する、基本方針に基づく**<u>11の施策テーマ</u>**と、施策テーマのもとで実践する**<u>45の事業</u>**を掲げます。

4つの基本方針

方針 1	生物多様性を「まもる※」	多くの生きものが関わりあえるように、生きものが存在する「自然環境」を守ります。 ※「まもる」とは、「大切にする」という意味で使用しています。
方針 2	生物多様性を「いかす」	防災や農業、観光など、暮らしや経済において、「自然の価値」をいかします。
方針 3	生物多様性を「たのしむ」	自然に親しむ、遊ぶ、癒やされるなど、「自然の魅力」を楽しみます。
方針 4	生物多様性を「つなぐ」	環境教育・学習、人材育成、財源確保などによって、「自然の恵み」を次世代に引き継ぎます。

４つの基本方針	１１の施策テーマ
生物多様性を まもる	１　緑地や山林、農地などをまもる
	２　自然環境の質をまもる
	３　コウノトリの生息環境をまもる
	４　自然のつながりをまもる
生物多様性を いかす	５　暮らしにいかす
	６　経済にいかす
生物多様性を たのしむ	７　自然の魅力を感じてたのしむ
生物多様性を つなぐ	８　情報でつなぐ
	９　人や活動がつなぐ
	１０　財源の活用でつなぐ
	１１　未来へつなぐ

４５の事業

1-① 江川地区の保全
1-② 中央の杜の保全
1-③ 山林（民有樹林地）の保全
1-④ 自然環境調査地点の保全
1-⑤ 生物多様性への配慮した土地利用の推進
1-⑥ 太陽光発電開発事業への対応
1-⑦ 農地保全と環境保全型農業の推進
1-⑧ 水田の利活用
1-⑨ 水環境の保全

2-① 希少種等の保全
2-② 外来種による影響の抑制
2-③ ペットの飼育に関する認識・理解の促進
2-④ 生物多様性に留意した維持管理の検討
2-⑤ 河川・水路の水質改善

3-① コウノトリの飼育・放鳥
3-② コウノトリの定着する環境づくり
3-③ コウノトリ関東地域個体群形成に係る協働の推進

4-① 河川や水路等における河川排水整備
4-② 広域連携による取組の推進

5-① ゼロカーボンシティ宣言を踏まえた取組
5-② 脱プラスチックへの意識の向上
5-③ 自然を意識した暮らしの普及・啓発

6-① 企業と連携したエコツーリズム
6-② 市内農産物の活用
6-③ 生物多様性に留意した消費活動

7-① 自然を楽しむルール・マナーの周知
7-② 生きものに関する啓発資料の作成
7-③ 生きものへの関心を高める取組の推進
7-④ 在来植物をいかした緑化活動の推進
7-⑤ 江川地区を活用したイベントの実施
7-⑥ ＳＤＧｓやカーボンニュートラルなど共通言語による意識の向上

8-① 市の取組に係る情報発信
8-② 市民団体や企業等による取組の情報収集及び発信

9-① 自然環境調査拠点等を中心とした活動
9-② 地域コミュニティによる身近な自然環境の保全
9-③ 企業・事業者による社会貢献活動への支援
9-④ 学校教育における自然環境拠点の活用

10-① みどりのふるさと基金の確保
10-② 森林環境譲与税の活用
10-③ 民間資金の活用
10-④ 生物多様性に係る支援制度情報の提供

11-① 自然を感じることによる郷土愛の醸成
11-②生物多様性を守り・伝える人材育成
11-③ 生物多様性に係る市民意識の把握
11-④戦略の定期的な進捗確認・評価の実施

野田市ではこの戦略をどうやって進めるの？

45 の事業に取り組みながら、市民、市民活動団体、企業や専門家などの皆様とも相互に連携します。また、様々な情報発信を行い、生物多様性保全の活動の輪を広げていきます。

① 各事業の進行管理

市は、4 つの基本方針に沿って作成した 45 の事業に率先的に取り組みます。また、年に 1 度、各事業の進捗状況を確認し、第 2 期戦略における事業検証のための会議を設置し、進行管理を行います。

② 検証結果の公表

進捗状況の検証結果については、市ホームページにより公表するとともに、これから事業は、施策の進捗状況、自然的・社会的状況の変化に応じ、適宜見直します。

③ 戦略の見直し

次期戦略の改訂に当たっては、事業の検証だけでなく、見直しに係るプロセスを決定することで、進行管理がスムーズに行えることから、進行管理と合わせて、次期戦略の見直しをします。

私たちに何ができるの？

●主体の分類と主な役割

①野　　田　　市：関係各課と協力し事業を推進、各主体との連携体制の構築

②教　育　機　関：子どもたちへの環境教育の推進

③市民活動団体：自然環境調査の実施及び協力、環境調査の情報集積

④市　　民：環境学習や生物多様性の保全活動への参加

⑤企　　業：環境保全活動の実施、他主体への支援、生物多様性への配慮

⑥関　係　機　関：国・県・大学、近隣自治体等との連携による広域的な事業の推進

私たちが安全・安心に暮らすため、みんなで生物多様性を感じて行動しよう！

発行日：令和５（2023）年３月
発　行：野田市
〒２７８－８５５０　千葉県野田市鶴奉７番地の１
電　話：０４－７１２５－１１１１（代表）
編　集：野田市自然経済推進部みどりと水のまちづくり課